

金賞

自主保全士の挑戦

株式会社富士フイルムティーピーエックス 富士宮工場

加工部 第二加工課 第四係 班長

北村 倫洋

私は、2008年11月に自主保全士2級の資格を取得しました。そこで、2009年度は資格と知識を職場で活用しようと思っておりましたが、社内での資格取得第一号ということもあり実践例もなく、なにをすべきか迷いました。

そんなとき、職場に大きな変化がありました。私の職場はレントゲンフィルムを加工していますが、これまでは男性12人で担当していた作業を女性8人男性4人で行うことになったのです。そこで、私は「女性の自主保全活動に挑戦しよう！」と決めました。

女性になにをどのように教育すべきか？ 設備名称や動作等を教えても全く反応してくれません。それどころか設備の知識や工具の名称さえもわからない状態でした。

正直、先行きが不安になりましたが、自主保全活動を進めるためには、その土台となる工具の使い方や部品・装置の名称などを教育することから始める必要があることに気付きました。そこで、清掃の必要性や保全の目的を理解させる「自主保全の基礎知識」という資料を作成し、座学で勉強できるようにするとともに、現場で清掃・注油の実践も行いました。

結果的に、女性オペレーターたちの反応は私の心配を吹き飛ばしました。「強制劣化の意味をもう一度教えて下さい」「〇〇機の注油個所は何箇所ありますか？」等々、たくさんの質問や疑問を投げかけてもらい、こんなに設備に興味を持ってくれるのかと感激しました。心のどこかで「女性にはできない」と決め付けていた自分を深く反省しました。

この女性オペレーターたちは、自主保全活動を進める基礎知識さえ習得すれば、必ず大きな成果を生み出すと確信し、保全スケジュールを立てました。清掃・給油・増締めなどの基本作業を中心とした活動を展開し、女性オペレーターたちのレベルアップを日々の活動の中で実感していました。

そんな折、包装工程で大量の不良が発生しました。原因は箱を成形する一部のガイドが原点になかったことでした。私たちは正しい基本条件の整備を行っ

てきたつもりでしたが、設備の基本的条件が整っていなかったのです。

この事実を突きつけられ、私もメンバーもとてもショックを受けました。「自分の設備は自分で守る」を実行するためには清掃・注油では不十分で、設備の原理原則・構造・動作を理解することが不可欠と気付きました。

しかし、こちらが一方向的に教えるだけでは、いずれ忘れて身にならない。各人が真剣になって考え、悩まなければ成長は無い。どうすればよいかと考えた結果、「オペレーター力量チェックテスト」と題した問題集を作成しました。これは、設備の部位ごとに名称、機能、メンテナンス方法等の問題を女性オペレーターに回答してもらうというものです。

当然、女性たちからは大ブーイングが起きましたが、いざやってみると「少しだけヒントをください」と私に言う女性、「その部位の名称だけ間違った」と悔しがる女性。結果の点数を見て喜んだり、悔しがったりと必死になって取り組んでくれました。

それからというもの、トラブルが起きると自ら解析する行動が身に付き、一段と成長した女性オペレーターになっていきました。

自主保全士2級を取得してからこの一年、女性オペレーターたちと一緒に自主保全活動を実践してきましたが、自主保全活動を展開するには「覚悟」が必要だということを知りました。中途半端な気持ちで取り組むと、障害にぶつかったときに挫折したり、メンバーに混乱を招いたり、苦勞した活動が台無しになってしまいます。活動をブレさせないためにも、計画の段階から、ありたい姿を描くこと。メンバーに教える時は「覚えてほしい」という意思と気持ちが通いあわなければ活動は進まないことを学びました。そして、女性オペレーターの成長とともに、私自身の成長も感じています。

私はこれからも自主保全士として、工程の改善とそれを維持する自主保全活動への挑戦を続けていきます。